

函館港から北太平洋の漁場へ

晴天に恵まれた 5 月 13 日、函館港から北太平洋海域へアカイカを求め「第 78 寿々丸」が出漁した。

近年、日本海のスルメイカ資源が少ないため、今年は 9 月下旬まで北太平洋の安定したアカイカ漁へ向かう。

燃料油高騰に加え資材の高騰も重なり、漁場まで 10 日前後を要するが、乗組員は安全操業を第一に満船で帰港すると意気込み、大漁旗をなびかせ出漁した。

5 月 10 日には、函館港と八戸港から同漁場へ 15 隻ほどが出漁しており、5 月下旬までに全船が向かう。

アカイカ漁場は東経 180 度・北緯 45 度付近にあり、海霧発生による見張りの強化や、船舶には耐久性と耐候性が求められるなど、厳しい漁場である。現在、国内には 30 隻ほどの中型イカ釣り漁船が操業しているが、毎年 4 月の出漁前には各船団代表漁労長と水産庁が、業界が抱える諸課題について意見交換会を開催している。

「海員だより」